

日本手外科学会 専門医更新認定申請書 提出書類チェックシート

様式	書類名称	要押印	チェック欄	備考
	提出書類チェックシート（本書類）	—		
2-1	専門医更新認定申請書	○		
2-2	施設一覧表	—		
2-3	診療実績証明書	○		
2-4	症例一覧表	—		
2-5	学会・教育研修会参加単位一覧表	—		
2-6	学会発表一覧表（*）	—		
2-7	論文発表一覧表・講演一覧表（*）	—		
	審査料の振込領収書（コピー）	—		

\*様式 2-3（診療実績証明書）、様式 2-4（症例一覧表）、様式 2-5（学会・教育研修会参加単位一覧表）で資格更新の要件を満たす場合は、様式 2-6（学会発表一覧表）、様式 2-7（論文発表一覧表・講演一覧表）の提出を必要としない

会員番号：

氏名：

※本用紙は提出時に同封してください。

## 日本手外科学会 専門医更新認定申請書

様式2-1

一般社団法人日本手外科学会 理事長殿

私は、日本手外科学会認定手外科専門医制度による資格更新をしたく、必要書類ならびに審査料を添えて申請いたします。

記入日 20××年 10月 1日

入会年月日（西暦）※1	1995年4月20日	
フリガナ	テゲカ タロウ	
氏名（記名捺印）	手外科 太郎	
性別	男	
生年月日（西暦）	1970年1月1日	
勤務先	名称	日本病院
	部署・役職	整形外科 医員
	郵便番号	100-0001
	所在地	東京都千代田区1
	電話番号	03-123-1111
	FAX番号	03-123-2222
	E-mail ※2	taro.tegeka@nihon-hp.or.jp
自宅	郵便番号	102-8481
	住所	東京都千代田区麴町5-1
	電話番号	03-123-4567
医籍登録番号	999999	

## &lt;各専門医資格&gt;

日本手外科学会	取得年月日（西暦）	2010年5月27日
	専門医番号	333333
日本整形外科学会	取得年月日（西暦）	2002年4月1日
	専門医番号	111111
日本形成外科学会	取得年月日（西暦）	2008年4月1日
	専門医番号	222222

※1. 引き続いての5年間（60ヶ月）会員であること

※2. 必須：専門医資格関連の連絡は原則としてE-mailで行いますので必ずご記入ください。

※3. 基盤学会の専門医であることが条件です。資格を保有していない場合は無しと記入。

施設一覧表

様式2-2

施設 No	在籍開始日	施設名称
	在籍終了日	
1	××××年×月×日	日本病院
	××××年×月×日	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

※最近5年間に所属していた施設を記入

## 診療実績証明書

様式2-3

一般社団法人日本手外科学会 理事長殿

下記の者は、当施設において下記期間に診療の実績を有することを証明する。

氏名	手外科 太郎	
診療開始日(西暦)	××××年×月×日	
診療終了日(西暦)	××××年×月×日	
施設No(様式2-2のNo)	1	
施設名	日本病院	
研修施設種別	基幹	
郵便番号	100-0001	
所在地	東京都千代田区1	
電話番号	03-123-1111	
FAX番号	03-123-2222	

※期間：在籍中の場合は、記入日をご記載ください。

※最近5年間に勤務した様式2-2：施設一覧表に記載されたすべての施設の証明書が必要です。

署名日 20××年 10月 15日

施設責任者(院長)の署名。  
大学病院の場合は、診療科の教授。

所属

日本病院

役職

院長

氏名(署名捺印)

日本 一郎



## 症例一覧表 (1/6)

様式2-4-1

症例 No	施設 No	加療年月 (西暦)	性別	年齢	診断名 (左右、部位も記載)
1	1	××××年×月	男	55	右母指屈筋腱鞘炎
2	1	××××年×月	女	65	左橈骨遠位端骨折
3	1	××××年×月	女	70	右手根管症候群
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					

※対象期間: 前回申請書提出締切日～2018年9月30日まで  
 猶予適用者は猶予期間以降～2018年9月30日まで  
 ※左右、部位も可能な限り記載すること

※直近通算5年間で150症例が必要

学会・教育研修会参加単位一覧表

※対象期間：2013年10月1日～2018年9月30日まで  
 猶予適用者は猶予期間以降～2018年9月30日

No	年月日（西暦）	学会・教育研修会名称	教育研修単位 講演	学会参加 単位	手外科 学術集 会参加																																		
1	××××年×月×日	第〇回日本手外科学会学術集会	5	8	○																																		
2	××××年×月×日	第〇回日本骨折治療学会	1																																				
3	××××年×月×日	第〇回日本手外科学会学術集会	1	8	○																																		
4	××××年×月×日	第〇回マイクロサージャリー学会学術集会	1	4																																			
5	××××年×月×日	第〇回日本手外科学会学術集会	3	8	○																																		
6	××××年×月×日	第〇回日本整形外科学会学術集会	3	4																																			
7	××××年×月×日	第〇回Web春期教育研修会	6																																				
8	××××年×月×日	第〇回秋期教育研修会1日目	4																																				
9	××××年×月×日	第〇回秋期教育研修会2日目	5																																				
10	<b>【単位取得例】</b>																																						
11	<p><b>教育研修講演単位・・・29単位</b>  <b>学会参加単位・・・32単位</b>  <b>合計・・・61単位となる。</b></p> <p><b>※学会参加単位で満たせない場合は、学会発表、論文発表を含めて25単位以上取得していればよい。</b>  <b>※学術集会の参加は2回以上(16単位)必須。</b></p>																																						
12																																							
13																																							
14																																							
15																																							
16	<p>専門医制度細則 第4章 第10条                  (3) 以下に定める研修実績を有すること                  ①直近通算5年間に、<b>本学会学術集会に2回以上参加していること</b>                  ②直近通算5年間に本学会が認定する教育研修講演を受講し、<b>50単位以上取得していること</b>。但し、必要単位の1/2を限度に自己申告により、学会発表、論文発表、学会又は研究会参加などで単位を取得することができる。なお、取得単位換算は、第5条第5号①(V)に定める基準による。</p>																																						
17	<p>会員専用ページ <a href="#">トップページに戻る</a> <a href="#">ログアウト</a></p> <p>教育研修講演受講単位情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医資格を取得もしくは更新するために必要な単位数は、50単位以上です。</li> <li>・その内、25単位までは、学会参加、学会発表、論文発表等で取得することが可能です。</li> <li>・教育研修講演受講単位は、事務局に届いた受講証明書をもとに入力しております。</li> <li>・受講証明書は、専門医資格更新の際に必要となりますので引き続き大切に保管ください。</li> <li>・なお、教育研修講演受講単位はリアルタイムの反映ではなく、順次反映させていただきます。</li> </ul> <p>手外科 太郎 先生</p> <table border="1"> <tr> <th>2010</th> <th>2011</th> <th>2012</th> <th>2013</th> <th>2014</th> <th>計</th> <th>次回更新年</th> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>2012</td> </tr> </table> <p>【内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>認定番号</th> <th>会の名称</th> <th>分野</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011/6/4</td> <td>11-027-01</td> <td>日本手外科学会 第17回春期教育研修会</td> <td>15</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2010/9/26</td> <td>10-050-03</td> <td>北海道手外科・ハンドセラピーセミナー</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2010/6/10</td> <td>10-014-01</td> <td>第5回東総地区 整形外科手術手技研究会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>					2010	2011	2012	2013	2014	計	次回更新年	2	3	0	0	0	5	2012	開催日	認定番号	会の名称	分野	単位	2011/6/4	11-027-01	日本手外科学会 第17回春期教育研修会	15	3	2010/9/26	10-050-03	北海道手外科・ハンドセラピーセミナー	9	1	2010/6/10	10-014-01	第5回東総地区 整形外科手術手技研究会		1
2010	2011	2012	2013	2014	計	次回更新年																																	
2	3	0	0	0	5	2012																																	
開催日	認定番号	会の名称	分野	単位																																			
2011/6/4	11-027-01	日本手外科学会 第17回春期教育研修会	15	3																																			
2010/9/26	10-050-03	北海道手外科・ハンドセラピーセミナー	9	1																																			
2010/6/10	10-014-01	第5回東総地区 整形外科手術手技研究会		1																																			
18	<p>印刷の上、同封してください。</p>																																						
19																																							
20																																							
計			29	32	3																																		
必要数			25 単位	16 単位	2 回																																		

※日本手外科：日本手外科学会学術集会参加の場合に○印を記入。  
 ※会員専用ページから『教育研修講演受講単位情報』を印刷の上、同封してください。  
 ※学会参加のみの場合は参加証のコピーを同封してください。  
 ※記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。

- ・日本手外科学会学術集会：8単位
  - ・日本医学会総会
  - ・日本整形外科学会学術総会及び基礎学術集会
  - ・日本形成外科学会学術集会及び基礎学術集会
  - ・日本マイクロサージャリー学会学術集会
  - ・日本肘関節学会
- 4単位
- ・東日本手外科研究会
  - ・中部日本手外科研究会
  - ・九州手外科研究会
  - ・その他の手外科関連国内学会・研究会
- 2単位

学会発表一覧表

様式2-6

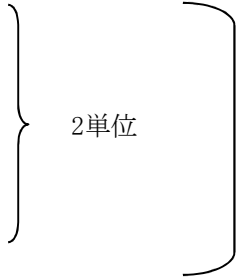
No	年月日	学会名	演題名	単位
1	××××年×月×日	第○回日本手外科学会 学術集会	舟状骨骨折の分類と治療方針	2
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
計				2

主演者に限る

学会発表(抄録)のコピーを添付。  
日手会オンラインジャーナルの場合、  
ホームページから検索可能。  
[https://www.jssh.jp/jssh\\_manager/mylist/M](https://www.jssh.jp/jssh_manager/mylist/M)

専門医制度細則 第3章 第5条 (8) 〈V〉  
2. 学会発表 (主演者に限る)

- ・日本手外科学会学術集会
- ・日本医学会総会
- ・日本整形外科学会学術総会及び基礎学術集会
- ・日本形成外科学会学術集会及び基礎学術集会
- ・日本マイクロサージャリー学会学術集会
- ・日本肘関節学会
- ・日本末梢神経学会



2単位

手外科に関する発表

論文発表一覧表

※対象期間:2013年10月1日～2018年9月30日ま

様式2-7

No	年月日	題名	雑誌名 (巻号頁)	単位
1	××××年×月×日	手根骨壊死に対する血行再建術		2
2	××××年×月×日	舟状骨骨折の病態	日本整形外科学会雑誌 第○巻第○号	2
3				
4		主著に限る	論文発表のコピーを添付。 日手会オンラインジャーナルの場合、 ホームページから検索可能。 <a href="https://www.jssh.jp/jssh_manager/mylist/M">https://www.jssh.jp/jssh_manager/mylist/M</a>	
5				
6				
7				
8				
9		専門医制度細則 第3章 第5条 (8) ① (V) 3. 論文発表 (主著に限る)		
10				
計				4

- ・日本手外科学会雑誌：2単位
- ・査読制度のある国内雑誌での手外科に関する論文：1単位
- ・査読制度のある外国雑誌での手外科に関する論文：2単位

講演一覧表

No	年月日	学会名	演題名	単位
1	××××年×月×日	第○回日本手外科学術集会	末梢神経	2
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
計				2

- ・日本手外科学会の主催する教育研修会での講演：2単位
- ・日本手外科学会の認定する教育研修講演：1単位



## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (1/6)

様式2-8-1

I. 皮膚・皮下組織・筋腱		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>1) 基礎</b>		C	1-01	
①	上肢の発生			
②	解剖、生理、病態、再生(筋、腱、皮膚、爪)			
<b>2) 診察法、検査、手術と保存療法の選択・手技</b>		A	1-02	
①	皮切			
②	創傷処理(ブラッシング、洗浄、デブリドマン)			
③	創閉鎖法(一次縫合、植皮(人工皮膚を含む)、皮弁(局所皮弁、遠隔皮弁、遊離皮弁))			
<b>3) 医療倫理・医療安全</b>		A	1-03	
<b>4) 皮膚・皮下組織の損傷</b>		A	1-04	
<b>5) 腱損傷</b>				
<b>(1) 屈筋腱損傷</b>		A	1-05-1	
①	腱縫合			
②	腱移植(人工腱手術も含む)			
③	腱移行			
④	腱剥離			
<b>(2) 伸筋腱損傷</b>		A	1-05-2	
①	腱縫合			
②	腱移植			
③	腱移行			
④	腱剥離			
⑤	腱性槌指			
⑥	外傷性ボタン穴変形			
⑦	(MP関節部)伸筋腱脱臼			
⑧	尺側手根伸筋腱脱臼			
<b>6) 筋損傷</b>		A	1-06	
<b>7) 末梢神経損傷・障害</b>				
<b>(1) 麻痺手の再建</b>		B	1-07-1	
①	Tetraplegic hand			
②	正中神経高位麻痺、低位麻痺			
③	尺骨神経高位麻痺、低位麻痺			
④	橈骨神経高位麻痺、低位麻痺			
⑤	混合神経麻痺(腕神経叢麻痺、分娩麻痺も含む)			
<b>8) 循環障害</b>				
<b>(1) コンパートメント症候群</b>		B	1-08-1	
<b>9) 四肢先天異常</b>				
<b>(1) 先天異常の分類(日本手外科学会修飾分類、Swanson分類)</b>		C	1-09-1	
<b>(2) 横軸形成障害(合短指症)</b>		B	1-09-2	
<b>(3) 長軸形成障害(橈側列形成障害、尺側列形成障害)</b>		C	1-09-3	
<b>(4) 分化障害(風車翼手、屈指症、Kirner変形)</b>		C	1-09-4	
<b>(5) 重複(母指・小指多指症)</b>		A	1-09-5	
<b>(6) 指列誘導障害(合指症、裂手・裂足症)</b>		A	1-09-6	
<b>(7) 過成長(巨指症)</b>		C	1-09-7	
<b>(8) 低成長</b>		C	1-09-8	
<b>(9) 絞扼輪症候群</b>		B	1-09-9	
<b>(10) 症候群の部分症</b>		C	1-09-10	
<b>(11) その他の形成障害(筋腱や爪甲など)</b>		C	1-09-11	
<b>10) 炎症性疾患</b>				
<b>(1) 化膿性炎症</b>		A	1-10-1	
①	指尖部化膿(爪郭炎(爪側炎、爪基部炎)、指腹部皮下膿瘍(ひょう疽)、爪下膿瘍)			
②	手掌部化膿(Parona腔、mid-palmar、thenar space)			
③	化膿性屈筋腱腱鞘炎			
④	結核性屈筋腱腱鞘炎			
⑤	非結核性抗酸菌症性腱鞘炎			
⑦	壊死性筋膜炎			

研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目

## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (2/6)

様式2-8-2

I. 皮膚・皮下組織・筋腱 (続き)		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>10) 炎症性疾患</b>				
<b>(2) 非化膿性炎症</b>		A	1-10-2	
①	狭窄性腱鞘炎 (弾発指、de Quervain病、尺側手根伸筋腱腱鞘炎)			
②	腱炎、腱周囲炎、腱付着部炎 (腱交差症候群、石灰沈着性腱炎、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎)			
③	その他			
<b>(3) 関節リウマチ</b>		B	1-10-3	
①	屈筋・伸筋腱腱鞘滑膜切除			
②	指変形 (スワンネック変形、ボタン穴変形、MP関節偏位)			
<b>11) 腫瘍及び類似疾患</b>				
<b>(1) 良性軟部腫瘍</b>		A	1-11-1	
①	腱鞘巨細胞腫			
②	その他 (類皮嚢腫、類上皮嚢腫、脂肪腫、線維腫、デスモイドなど)			
<b>(2) 悪性腫瘍</b>		C	1-11-2	
<b>(3) 腫瘍類似疾患</b>		A	1-11-3	
①	ガングリオン			
②	粘液嚢腫			
③	結節性筋膜炎			
④	好酸球性肉芽腫			
<b>(4) 骨系統疾患</b>		C	1-11-4	
<b>12) 拘縮</b>				
<b>(1) 皮膚性拘縮</b>		A	1-12-1	
<b>(2) 筋・腱性拘縮</b>		B	1-12-2	
<b>(3) 瘢痕拘縮 (外傷、熱傷などによる。肥厚性瘢痕、ケロイドなど含む)</b>		B	1-12-3	
<b>(4) Dupuytren拘縮</b>		A	1-12-4	
<b>(5) 阻血性拘縮</b>		C	1-12-5	
①	Volkman拘縮			
②	手局所性拘縮			
<b>13) 特殊な外傷</b>				
<b>(1) 高圧注入損傷</b>		C	1-13-1	
<b>(2) 熱傷</b>		B	1-13-2	
<b>(3) 熱圧挫傷</b>		C	1-13-3	
<b>(4) 電撃傷</b>		C	1-13-4	
<b>(5) 化学損傷</b>		C	1-13-5	
<b>(6) 咬創</b>		A	1-13-6	
<b>(7) 皮膚剥脱創</b>		B	1-13-7	
<b>(8) 爪損傷</b>		A	1-13-8	
<b>(9) 凍傷</b>		B	1-13-9	
<b>(10) その他</b>		C	1-13-10	
<b>14) 難治性潰瘍</b>		C	1-14	
<b>15) 皮膚・皮下組織・筋腱に対するマイクロサージャリー</b>				
<b>(1) 基本手技</b>		A	1-15-1	
①	血管吻合 (静脈移植を含む)			
②	神経縫合 (神経移植を含む)			
<b>(2) 有茎・遊離組織移植 (外傷、腫瘍切除後の再建)</b>		A	1-15-2	
①	皮弁			
②	複合組織			
<b>16) 皮膚・皮下組織・筋腱に対する内視鏡下治療</b>		C	1-16	
<b>17) 皮膚・皮下組織・筋腱に対する保存治療、リハビリテーション・装具</b>		A	1-17	
①	評価法			
②	理学療法 (拘縮の予防・除去、筋力強化など)			
③	作業療法 (運動療法 (巧緻動作訓練など)、知覚再教育)			
④	装具療法			

研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目

## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (3/6)

様式2-8-3

II. 神経・血管・リンパ管		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>1) 基礎</b>		C	2-01	
①	上肢の発生			
②	解剖、生理、病態、再生(末梢神経、血管、リンパ管)			
<b>2) 診察法、検査、手術と保存療法の選択・手技</b>		A	2-02	
①	皮切			
②	創傷処理(ブラッシング、洗浄、デブリドマン)			
③	創閉鎖法(一次縫合、植皮(人工皮膚を含む)、皮弁(局所皮弁、遠隔皮弁、遊離皮弁))			
<b>3) 医療倫理・医療安全</b>		A	2-03	
<b>4) 末梢神経損傷・障害</b>				
<b>(1) 末梢神経損傷</b>		A	2-04-1	
①	腕神経叢損傷(外傷性、分娩麻痺)			
②	神経損傷(断端神経腫を含む)			
<b>(2) 絞扼性神経障害</b>		A	2-04-2	
①	正中神経(手根管症候群、回内筋症候群、前骨間神経麻痺)			
②	尺骨神経(肘部管症候群、尺骨管(Guyon管)症候群)			
③	橈骨神経(後骨間神経麻痺、橈骨管症候群)			
④	胸郭出口症候群			
⑤	その他(肩甲上神経麻痺、腋窩神経麻痺)			
<b>(3) 複合性局所疼痛症候群(CRPS)</b>		B	2-04-3	
<b>(4) 麻痺手の再建</b>		B	2-04-4	
①	Tetraplegic hand			
②	正中神経高位麻痺、低位麻痺			
③	尺骨神経高位麻痺、低位麻痺			
④	橈骨神経高位麻痺、低位麻痺			
⑤	混合神経麻痺(腕神経叢麻痺、分娩麻痺を含む)			
<b>5) 循環障害</b>				
<b>(1) 血管損傷</b>		A	2-05-1	
<b>(2) 血管閉塞性疾患</b>		C	2-05-2	
<b>(3) Kienböck病</b>		A	2-05-3	
<b>(4) Preiser病</b>		C	2-05-4	
<b>(5) その他</b>		C	2-05-5	
<b>6) 四肢先天異常</b>				
<b>(1) 四肢先天異常の分類(日本手外科学会修飾分類、Swanson分類)</b>		C	2-06-1	
<b>(2) 過成長(巨指症)</b>		C	2-06-2	
<b>(3) 低成長</b>		C	2-06-3	
<b>(4) 絞扼輪症候群</b>		B	2-06-4	
<b>(5) 症候群の部分症</b>		C	2-06-5	
<b>(6) その他</b>		C	2-06-6	
<b>7) 腫瘍及び類似疾患</b>				
<b>(1) 良性軟部腫瘍</b>		A	2-07-1	
①	グロムス腫瘍			
②	神経鞘腫			
③	血管腫			
④	その他			
<b>(2) 悪性腫瘍</b>		C	2-07-2	
<b>(3) 腫瘍類似疾患</b>		C	2-07-3	
<b>(4) 骨系統疾患</b>		C	2-07-4	
①	Maffucci症候群			
②	Ollier病			
<b>8) 拘縮</b>				
<b>(1) 麻痺性拘縮</b>		C	2-08-1	
<b>(2) 阻血性拘縮</b>		C	2-08-2	

研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目

## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (4/6)

様式2-8-4

Ⅱ. 神経・血管・リンパ管 (続き)		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>9) 神経・血管・リンパ管に対するマイクロサージャリー</b>				
<b>(1) 基本手技</b>		A	2-09-1	
①	血管吻合 (静脈移植を含む)			
②	神経縫合 (神経移植、神経移行、神経剥離を含む)			
<b>(3) 有茎・遊離組織移植 (外傷、腫瘍切除後の再建)</b>		A	2-09-2	
①	皮弁			
②	複合組織			
<b>10) 神経・血管・リンパ管に対する治療 (内視鏡下手術・リンパ管静脈吻合を含む)</b>		C	2-10	
①	評価法			
②	理学療法 (拘縮の予防・除去、筋力強化など)			
③	作業療法 (運動療法 (巧緻動作訓練など)、知覚再教育)			
④	装具療法			
Ⅲ. 骨・関節・靭帯		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>1) 基礎</b>				
①	上肢の発生	C	3-01	
②	解剖、生理、病態、再生 (骨、関節 (肘関節を含む))			
<b>2) 診察法、検査、手術と保存療法の選択・手技</b>		A	3-02	
①	皮切			
②	創傷処理 (ブラッシング、洗浄、デブリドマン)			
③	創閉鎖法 (一次縫合、植皮 (人工皮膚を含む)、皮弁 (局所皮弁、遠隔皮弁、遊離皮弁))			
<b>3) 医療倫理・医療安全</b>		A	3-03	
<b>4) 骨折、脱臼、靭帯損傷 (偽関節を含む)</b>				
<b>(1) 指節骨、中手骨骨折</b>		A	3-04-1	
①	指節骨骨幹部骨折			
②	指節骨頸部騎乗型骨折			
③	指関節内骨折 (骨性槌指、掌側板裂離骨折、側副靭帯裂離骨折、PIP関節脱臼骨折)			
④	中手骨骨幹部骨折			
⑤	中手骨頸部骨折			
⑥	Bennett脱臼骨折			
⑦	Rolando骨折			
⑧	尺側列CM関節内骨折			
<b>(2) 指関節の脱臼、靭帯損傷</b>		A	3-04-2	
①	側副靭帯損傷 (Stener損傷を含む)			
②	掌側板損傷			
③	PIP関節脱臼			
④	MP関節ロッキング			
<b>(3) 手根骨の骨折、脱臼、靭帯損傷</b>		B	3-04-3	
①	舟状骨骨折			
②	有鉤骨鉤骨折			
③	月状骨 (周囲) 脱臼			
④	舟状月状骨解離			
⑤	遠位橈尺関節脱臼			
<b>(4) 橈骨遠位端骨折</b>		B	3-04-4	
①	背屈型橈骨遠位端骨折 (Colles骨折)			
②	掌屈型橈骨遠位端骨折 (Smith骨折)			
③	橈骨手根間関節脱臼を伴う橈骨遠位端骨折 (Barton骨折)			

研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目

## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (5/6)

様式2-8-5

Ⅲ. 骨・関節・靭帯 (続き)		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>4) 骨折、脱臼、靭帯損傷 (続き)</b>				
<b>(5) 前腕骨骨折</b>				
①	骨幹部骨折	B	3-04-5	
②	Galeazzi骨折			
③	塑性彎曲骨折 (急性塑性変形)			
<b>(6) 肘関節周辺の骨折、脱臼、靭帯損傷</b>				
①	上腕骨顆上骨折	B	3-04-6	
②	上腕骨外側顆骨折			
③	上腕骨内側上顆骨折			
④	上腕骨遠位骨端離解			
⑤	上腕骨遠位部骨折			
⑥	橈骨頭・頸部骨折			
⑦	肘頭骨折			
⑧	肘関節脱臼			
⑨	Monteggia脱臼骨折			
⑩	Essex-Lopresti骨折			
⑪	内側側副靭帯損傷			
⑫	外側側副靭帯損傷			
<b>5) 四肢先天異常</b>				
(1)	四肢先天異常の分類 (日本手外科学会修飾分類、Swanson分類)	C	3-05-1	
(2)	横軸形成障害 (合短指症)	B	3-05-2	
(3)	長軸形成障害 (橈側列形成障害、尺側列形成障害)	C	3-05-3	
(4)	分化障害 (先天性骨癒合症、風車翼手、屈指症、Kirner変形)	C	3-05-4	
(5)	重複 (母指・小指多指症)	A	3-05-5	
(6)	指列誘導障害 (合指症、裂手・裂足症)	A	3-05-6	
(7)	過成長 (巨指症)	C	3-05-7	
(8)	低成長 (短指症、斜指症)	C	3-05-8	
(9)	症候群の部分症	C	3-05-9	
(10)	その他	C	3-5-10	
<b>6) 関節変性疾患</b>				
(1)	Heberden結節	A	3-06-1	
(2)	Bouchard結節	B	3-06-2	
(3)	MP関節症	C	3-06-3	
(4)	母指CM関節症	A	3-06-4	
(5)	carpal boss	C	3-06-5	
(6)	変形性手関節症 (SLAC wrist、SNAC wristを含む)	B	3-06-6	
(7)	遠位橈尺関節症	B	3-06-7	
(8)	変形性肘関節症	C	3-06-8	
(9)	肘関節スポーツ障害 (上腕骨小頭離断性骨軟骨炎、内側側副靭帯障害、肘頭疲労骨折などを含む)	C	3-06-9	

## 研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目

## 研修カリキュラム対応疾患一覧表 (6/6)

様式2-8-6

Ⅲ. 骨・関節・靭帯 (続き)		研修 基準	カリキュラム コード	症例 数
<b>7) 炎症性疾患</b>				
<b>(1) 化膿性炎症</b>				
① 化膿性関節炎	A	3-07-1		
② 化膿性骨髄炎				
③ 結核性関節炎				
④ 結核性骨髄炎				
<b>(2) 非化膿性炎症</b>				
① 結晶誘発性関節炎 (痛風、偽痛風)	B	3-07-2		
② 石灰沈着性関節周囲炎				
③ 肘頭部滑液包炎				
<b>(3) 関節リウマチ</b>				
① 関節形成	B	3-07-3		
② 指変形 (スワンネック変形、ボタン穴変形、MP関節偏位)				
<b>8) 腫瘍及び類似疾患</b>				
<b>(1) 良性骨腫瘍</b>				
① 内軟骨腫	A	3-08-1		
② 骨軟骨腫 (外骨腫)				
③ 骨巨細胞腫				
④ 孤立性骨嚢腫				
⑤ 類骨骨腫				
⑥ その他				
<b>(2) 悪性腫瘍</b>				
<b>(3) 腫瘍類似疾患</b>				
<b>(4) 骨系統疾患</b>				
<b>9) 拘縮</b>				
<b>10) 手関節疾患</b>				
<b>(1) Kienböck病</b>				
<b>(2) Preiser病</b>				
<b>(3) 遠位橈尺関節障害</b>				
<b>(4) 三角線維軟骨複合体損傷・障害</b>				
<b>(5) 尺骨突き上げ症候群</b>				
<b>(6) 手根不安定症</b>				
<b>11) 骨・関節・靭帯に対するマイクロサージャリー</b>				
<b>(1) 基本手技</b>				
① 血管吻合 (静脈移植を含む)	A	3-11-1		
<b>(2) 有茎・遊離組織移植 (外傷、腫瘍切除後の再建)</b>				
① 皮弁	A	3-11-2		
② 複合組織				
<b>12) 骨・関節・靭帯に対する内視鏡下治療</b>				
<b>13) 骨・関節・靭帯に対する保存療法、リハビリテーション・装具</b>				
① 評価法	A	3-13		
② 理学療法 (拘縮の予防・除去, 筋力強化など)				
③ 作業療法 (運動療法 (巧緻動作訓練など)、知覚再教育)				
④ 装具療法				

研修基準

A: 術者・指導者として手術・処置することができる項目

B: 助手として手術・処置を経験しておくべき項目

C: 知識として修得すべき項目